

# 指定調査研究総合助成事業 種苗生産技術研究

## ヒラメ・カレイ類種苗生産試験 (要 約)

高橋 邦夫・小倉 大二郎

### 1 マガレイ

- 1) 水槽内自然採卵と人工採卵の受精率を比較すると人工採卵の方がよい値を示した。
- 2) 初期餌料として凍結シオミズツボムンは単独では使用に耐えないものと考えられる。
- 3) 稚魚期の餌料として、貝類、魚類、甲殻類、多毛類、これらの混台、凍結アルテミアを比較し、魚肉を主体にした混台餌料が、成長、歩留ともにより結果を得た。
- 4) 水槽内に棚を設けることによって面積の増大をはかったが、棚の上に分布する個体が少なく、効果は認められなかった。
- 5) マガレイは、水温25℃前後で摂餌不良となり、27℃以上では斃死する。
- 6) 正常個体と体色素異常個体の全長を比較したところ、正常個体が異常個体の全長の4.0～8.8%大きい値を示した。
- 7) 白化個体の色素は徐々に増大することが認められた。

### 2 クロガシラガレイ

- 1) 乾式と湿式による受精率は、湿式が僅かによい結果を得た。
- 2) ふ化適温は、産卵期の海水温と同じ7～8℃とみられ16℃以上では殆んど斃死した。

### 3 ヒラメ

- 1) ふ化仔魚から全長35mm前後まで50日を要し、歩留は30%前後であった。
- 2) アルテミアの給餌時期と白化個体の出現率との間に関連があるように考えられる。



詳細については、昭和48年度 指定調査研究総合助成事業種苗生産技術研究報告書(昭和49年2月)青森県水産増殖センターに発表した。